

平成 26 年度（2014 年度）自治体職員協力交流事業  
**協力交流研修員 研修報告書**

2014 Local Government Officials  
Training Program in Japan  
**Trainee Reports**



一般財団法人  
**自治体国際化協会**

平成 26 年度（2014 年度）自治体職員協力交流事業  
**協力交流研修員 研修報告書**

2014 Local Government Officials Training Program in Japan

## Trainee Reports



一般財団法人

**自治体国際化協会**

# はじめに

総務省及び（一財）自治体国際化協会では海外の自治体等の職員を受け入れることについて、財政面や受入実務面での支援を行うための「自治体職員協力交流事業」を展開しています。

平成8年度より創設された自治体職員協力交流事業も19年目を迎え、37の国と地域から1,057名が本事業に研修員として参加されました。平成26年度（2014年度）においては11カ国から34名の研修員が様々な分野で実り多い研修を行いました。

本事業は「ひとづくり」を通じた国際協力事業の1つですが、研修員の皆さんが日本の自治体の有するノウハウ・技術を習得され、帰国後、日本における研修の成果や経験をそれぞれの職場において大いに活かされ、また、自治体間の国際協力・交流の貴重な架け橋として活躍されていると伺っております。

そうした研修員の日本での奮闘ぶり、研修の成果を各方面の方々のご協力のもと、平成26年度も報告書として編集することができました。本版からは、全事例でなく、国際交流や技術の習得に加えて、研修員本人のノウハウが自治体の行政施策の実施や問題の解決に貢献している事例等を中心に8事例を選定し、掲載しております。

この報告書が研修員派遣国や今後研修員の受け入れを予定されている各自治体において活用していただけたら幸いです。

最後に、研修員の受け入れにご尽力されました各受入自治体及び関係機関の皆様方に対して、心よりお礼を申し上げます。

平成27年(2015年)7月

(一財)自治体国際化協会  
交流支援部 経済交流課

# Foreward

The Local Government Officials Training Program (LGOTP) is a joint initiative of The Ministry of Internal Affairs and Communications and the Council of Local Authorities for International Relations. We provide both financial and practical assistance to invite local government officials from around the world to study in Japan

The LGOTP was established in 1996 and entered its 19th year in 2014. A total of 1,057 participants from 37 countries and regions have participated on the program since its inception, and in 2014 we welcomed 34 participants from 11 nations who studied a wide range of topics.

One of the main goals of this program is to assist each trainee improve their skill set through absorbing the know-how to be found in Japanese local governments. We hope that each trainee returns to their home local government to apply this knowledge for the improvement of their local community. Of course, the bonds of friendship and cooperation formed between Japanese local governments and their overseas counterparts are another enduring benefit of the program.

The 2014 training report reflects the hard work of the LGOTP trainees, and has been compiled with the cooperation of all involved in the program. Rather than a complete overview of every trainee's work, we have selected a total of 8 reports covering topics such as international and technical exchange. There is also a section outlining how individual trainees have assisted their host local governments implement policy and solve pressing issues within Japan.

We hope this booklet proves useful both for the trainees' home countries and for local governments who are considering inviting trainees to Japan.

We extend our deepest gratitude to all local government officials and other individuals whose efforts make this program possible.

July 2015

International Cooperation and Economic Relations Division  
Department of International Exchange, Cooperation and Economic Relations  
Council of Local Authorities for International Relations

## ＝平成26（2014）年度自治体職員協力交流事業スケジュール＝

2014年

4月18日（金） 受入れ自治体担当者会議

東京来日研修

5月18日（日） 協力交流研修員の来日 ルポール麴町泊  
5月19日（月） 開会式  
オリエンテーション  
講話（総務省国際室長）  
受入れ自治体との面談 ルポール麴町泊  
5月20日（火） 日本語レベルチェック  
都内視察：浅草寺、国会議事堂 ルポール麴町泊  
5月21日（水） 東京から滋賀（J I AM）へ移動  
J I AM交流会

全国市町村国際文化研修所（JIAM）研修

5月22日（木） J I AM開講式  
日本語研修 授業：70分×64コマ  
5月24日（土） 京都市内視察（伏見稲荷、清水寺、二条城等）  
6月2日（月） 地方自治行財政講義（総務省国際室）  
6月6日（金） 日本伝統文化講義  
（裏千家談支会 北野宗道特別参事）  
6月7日（土） 滋賀県内視察  
（彦根城、日野商人館、ホームビジット等）  
6月12日（木） 行政課題講義（立命館大学 山口洋典 准教授）  
6月17日（火） 成果発表会  
6月19日（木） J I AM閉講式 日本語ステップアップ研修開始  
日本語研修 授業：70分×36コマ  
7月3日（木） J I AM日本語ステップアップ研修終了

専門研修

6月20日（金） 各受入れ自治体における専門研修開始

研修員の帰国

11月中旬～3月末にかけ順次帰国

## 全体研修風景

### 東京研修



### 受入自治体との面談



### 東京視察（国会議事堂）



### 日本語研修 (JIAM)



京都市内視察



日本伝統文化講義



滋賀県内視察



防災訓練



学校訪問



平成26年度 自治体職員協力交流事業 協力交流研修員名簿

都道府県	市町村	氏名	性別	国名	所属団体	研修分野
北海道	旭川市	白 銀淑	女	大韓民国	水原市	土木・建築
北海道	旭川市	ツェンドアコシ バヤルムフ	男	モンゴル国	ウランバートル市	都市計画
北海道	滝川市	ウルジーバト ソルバヤル	女	モンゴル国	ウブルハンガイ県	農林水産
北海道	滝川市	ツェベルダンバ ドルガルドゥラム	女	モンゴル国	ウブルハンガイ県	農林水産
北海道	滝川市	ドルジン ヤンジンドゥラム	女	モンゴル国	ウブルハンガイ県	農林水産
北海道	滝川市	ポルドバートル ウンドラハ	女	モンゴル国	トゥブ県	農林水産
北海道	滝川市	レンツェンドルジ ソヨルマー	女	モンゴル国	トゥブ県	農林水産
岩手県		于 璐	女	中華人民共和国	大連市	観光
岩手県	金ヶ崎町	李 碩	女	中華人民共和国	長春市	一般行政
茨城県	笠間市	アウン ティン リン	男	ミャンマー連邦共和国	ミャンマー内務省	観光
茨城県	笠間市	シーサワット ピンボ	男	ラオス人民民主共和国	ルアンパバーン市	観光
千葉県		アリフィ ルーリエタ	女	コソボ共和国	コソボ共和国政府	一般行政
富山県		コスタ ホジレイネ アバレシーダ	女	ブラジル連邦共和国	サンパウロ州	教育
福井県	福井市	金 道亨	男	大韓民国	水原市	一般行政
山梨県		ブルマー ベドロザ タミレス ナタリア	女	ブラジル連邦共和国	ミナス・ジェライス州	観光
岐阜県	高山市	周 嵐	女	中華人民共和国	麗江市	一般行政
静岡県	浜松市	沈 妍	女	中華人民共和国	瀋陽市	観光
愛知県	豊橋市	オノ マルシア ケイコ	女	ブラジル連邦共和国	パラナ州	教育
滋賀県	東近江市	曹 又丹	女	中華人民共和国	湖南省常德市	一般行政
京都府		高 少敏	女	中華人民共和国	陝西省	国際交流
奈良県	橿原市	チャン ビン スオウン	女	ベトナム社会主義共和国	ベッチ市	保健
鳥取県		李 希沛	男	中華人民共和国	吉林省	商工
島根県		周 聡	男	中華人民共和国	吉林省	農林水産
山口県		賈 茹	女	中華人民共和国	山東省	一般行政
高知県		アトゥ プレント アンドレス	男	フィリピン共和国	ベンゲット州	農林水産
高知県	高知市	イラワン ヘンディヤルト	男	インドネシア共和国	スラバヤ市	一般行政
福岡県	北九州市	ファン バン フェン	男	ベトナム社会主義共和国	ハイフォン市	水道
福岡県	北九州市	サトリヨ ソエサント	男	インドネシア共和国	スラバヤ市	環境
福岡県	北九州市	ウォルヒナ アンナ	女	ロシア連邦	チェリャビンスク市	商工
福岡県	福岡市	ソー ミン ト	男	ミャンマー連邦共和国	ヤンゴン市開発委員会	水道
佐賀県	佐賀市	閻 曉璐	男	中華人民共和国	江蘇省連雲港市	一般行政
長崎県	長崎市	フランサ ノハラ バトリシア	女	ブラジル連邦共和国	サントス市	一般行政
長崎県	佐世保市	蔡 鶯芳	女	中華人民共和国	廈門市	国際交流
大分県		熊 嬌	女	中華人民共和国	四川省	観光

目 次

---

1. 岩手県のあきらめない精神を学んで .....	于 璐（中国）	1
岩手県 「岩手と大連の架け橋として」.....		4
2. 自治体職員協力交流事業報告書.....	アウン ティン リン（ミャンマー）	7
笠間市 「協力交流研修員を受け入れて」 .....		11
3. 富山での研修体験.....	コスタ ホジレイネ アパレシーダ（ブラジル）	13
富山県 「平成26年度自治体職員効力交流事業を実施して」 .....		17
4. 日本の教育現場で感じたこと .....	オノ マルシア ケイコ（ブラジル）	19
豊橋市 「ブラジル人児童生徒の教育支援に向けて」 .....		22
5. 絆・一生忘れられない日本の研修生活 .....	賈 茹（中国）	24
山口県 「国際空港の将来を担う研修員との国際交流」 .....		28
6. 土壌管理技術.....	アトゥ ブレント アンドレス（フィリピン）	32
高知県 「ベンゲット州の土壌改良に向けて」.....		34
7. 環境に配慮した北九州市の下水道技術をハイフォン市へ .....	ファン バン フェン（ベトナム）	36
北九州市 「平成年26度自治体職員協力交流事業 自治体事業報告書 .....		40
8. 湖北省と大分県の交流促進のため .....	熊 娟（中国）	44
大分県 「2年目となる中国湖北省の研修生を受け入れて」.....		48

## 岩手県のあきらめない精神を学んで

受入自治体： 岩手県  
氏 名： 于 璐  
出 身 国： 中華人民共和国  
研 修 先： 商工労働観光部産業経済交流課



### 1 本事業に応募した動機

私は大連市金州区地方税務局に勤めている于璐と申します。

私は、2009年に約1年弱日本に滞在したことがあり、ずっと日本に興味を持っていたため、自治体職員協力交流研修員の募集を知り、すぐ申し込みました。

岩手県は平成19年に大連市と「地域間連携の推進に係る協定」を結びました。更に岩手県は大連市に経済事務所を設置し、さまざまな分野で交流を行っています。これは岩手県の生活や文化を自ら体験し、岩手県の職場を体験できる絶好のチャンスだと思いました。

### 2 研修の概要

#### (1) 全体研修

2014年5月18日に各国の研修員が日本に到着し、全体研修が始まりました。初めの2日間は東京でオリエンテーションや日本語レベルチェックなどを受けました。その時に初めて研修員は各自自治体の担当者と面会しました。私も岩手県の担当者から暖かい歓迎の言葉をいただき、岩手県のチャグチャグ馬コのペンもいただきました。

東京での研修終了後、一ヶ月間、滋賀県大津市の全国市町村国際文化研修所で日本語研修を受けました。私は花クラスに入りましたが、他のクラスメートより日本語が下手でした。しかし、講師の方々はとても親切に教えてくれ、心から感謝しました。私もその環境に徐々に慣れ、積極的にそして真面目に勉強しました。研修の内容は日本語だけではなく、日本人との交流や日本文化の体験などもありました。防災センター、彦根城、近江日野商人館、伏見稲荷大社などを見学し、日本人の家庭にも訪問しました。この一ヶ月間で、私は日本社会のルールや文化などが少し分かるようになりました。

#### (2) 専門研修

##### ①一般行政研修

岩手県に到着して最初の一週間は、若者女性協働推進室で岩手県の基本状況、岩手県議会、多文化共生、震災復興計画について勉強しました。私は中国の地方税務局で勤めていたので、日本の税務について深い興味がありました。若者女性協働推進室のおかげで、県の税務課職員から岩手県の納税システムの説明をいただきました。

また、環境生活部の「関係施設現地研修」に参加し、食肉衛生検査所やいわてグリーンセンター、いわて県民情報交流センターなどを見学しました。この見学によって、安全・安心を守る取組や県民活動の拠点施設の様子が分かりました。

この研修において、特に、経済情報交流の部分において、皆さんが岩手県の復興事業に一生懸命頑張っている姿を見て、私は感動しました。

## ②経済交流分野

岩手県商工労働観光部では、2011年の東日本大震災津波発生以降、経済の復興に努力しています。県内の中小企業の積極性を呼び起こす取組を行っており、私は、8月に、「岩手県よろず支援拠点」開設記念セミナー、9月に「中小企業 海外展開シリーズセミナー」、10月に「第3回海外展開支援コンソーシアム」、いわぎん「ハラルビジネスセミナー」に参加しました。海外での成功経験を学び、海外経済情報を伝えるなど、中小企業の経済復興のために、様々な努力をしています。

また、岩手県では海外との経済交流を強化しています。岩手県は大連に経済事務所を設置しており、この事務所は中国との経済交流で重要な役目を担っています。特に岩手県の伝統工芸品である南部鉄瓶や漆器などは、中国で大人気です。もっと海外のバイヤーを岩手県に連れてきて、県産品の知名度を拡大すれば、海外との流通が増え、経済が活性化すると思います。

2014年10月、空港課からの依頼で、いわて花巻空港での台湾秋季定期チャーター便初便歓迎セレモニーのお手伝いをしました。また、11月には、チャーター便を利用した台湾からのお客様への満足度アンケート調査をお手伝いしました。私は、台湾のお客様が満足するよう頑張りました。

## ③国際文化交流

### ア) 中国文化紹介講座

岩手県に来てから、毎月約2回程度、県庁で中国文化紹介講座を開催しました。中国雲南省から来た国際交流員と一緒に、中国の風俗や伝統的な祭りや簡単な中国語などを県庁の皆様を紹介しました。特に「舌で味わう中国」と中国の健康気功「八段錦」が好評を得ました。



いわて花巻空港の中国語講座

また、台湾定期チャーター便就航をきっかけとして、8月から9月にかけて、いわて花巻空港の従業員に対して開催された中国語講座に講師として参加しました。お客様に対する、基本的な挨拶、質問への答えなどを空港の従業員に教えました。短い時間でしたが、私はみなさんの真面目さと真剣さに感動しました。

### イ) 中国情報誌「中国進行時」の発行

県職員向けに中国情報誌「中国進行時」を発行しました。2015年2月末時点で4巻を発行しました。美しい風景や人気がある話題を皆様に伝えて、少しでも中国のことが分かるようになればよいと思います。

#### ウ) 日中交流事業

岩手県宮古市は中国烟台市と深い縁を持っています。両市は21年間の友好交流関係があり、双方何回も訪問したことがあります。

私は、宮古市日中友好協会の招待をいただいて、2014年11月11日に、宮古市日中友好協会総会及び中国烟台開発区医院団の歓迎レセプションに参加しました。宮古市と烟台市、そして岩手県と大連市の友好関係が継続していくことを祈っております。

2014年11月20日、岩手県職員を対象に中国お茶会を開催しました。雲南省特産のプーアル茶と南部鉄瓶はとても相性が良いため、雲南省から来ている国際交流員と一緒にプーアル茶の試飲会を行いました。試飲会の前に、パワーポイントで大連と雲南省の基本情報、産業や観光スポットなどを紹介した後、皆さんと一緒に話をしながら、プーアル茶を飲みました。皆さんが思っていたよりも、中国のことに興味があり、雰囲気盛り上がりました。参加者及び関係者に、心から感謝しました。



中国情報誌「中国進行時」



中国お茶会でプーアル茶の試飲

### 3 帰国後の展望

今回の研修において日本の皆様からたくさん協力をいただきました。特にCLAIRの皆様と岩手県庁の皆様が大変お世話になりました。岩手県民の皆様が情熱を持ち、地元の復興のために一生懸命な姿を見させていただきました。帰国したら、周りの人たちに岩手県民のあきらめない精神を伝え、より多くの人々に岩手県の魅力を知ってもらいたいです。また、岩手県と大連市の架け橋として、そして、日中両国の友好のために努力したいと考えています。

# 「岩手と大連の架け橋として」

自治体名 岩手県  
研修員名 于 璐  
出身国 中華人民共和国  
研修分野 経済交流  
研修期間 11ヶ月  
主な研修先 商工労働観光部 産業経済交流課



宮古市浄土ヶ浜にて

## 1 背景・目的

岩手県と中華人民共和国大連市とは、地域間連携の強化を目的として2007年5月に「地域間連携の推進に関する協定」を締結し、また、翌2008年1月には同協定に基づき、職員の相互派遣交流を行うことを定めた「公務員交流研修覚書」を締結。

さらに、覚書の有効期間満了に備え、2012年12月には「岩手県による大連市職員の派遣研修の受入れに係る覚書」を改めて締結。

同覚書に基づき、2008年度から2014年度までに合計6名の大連市派遣研修員を受け入れ現在に至っている。

(※ 2011年度は、東日本大震災の発災を踏まえ、大連市政府との協議により受入休止とした。)

## 2 事業実施にあたって工夫・苦労したこと

### 【主な研修内容】

#### 《経済交流用務》

- ・岩手県の中経済交流事業に係る中国語翻訳通訳業務全般
- ・雲南省政府訪問団の受入れに係る通訳・アテンド
- ・中国食品商社の本県招聘事業に係る通訳・アテンド
- ・中国茶業バイヤー来県受入れ対応
- ・「いわて海外展開支援コンソーシアム」本県実施補助
- ・インダストリアルツアー（外国大使経済視察調査）事業支援

#### 《国際観光用務》

- ・台湾チャーター便訪日団歓迎セレモニー通訳
- ・花巻空港台湾旅行者受入のための中国語講座講師
- ・中国旅行社来県アテンド

#### 《その他研修》

- ・中国情報誌「中国進行時（China Now）」の定期発行
- ・国際交流協会事業「ちゃっとらんど」での春節行事紹介

- ・NHKローカルニュースでの中国春節行事紹介
- ・県庁内での中国文化紹介（中国茶会開催、食文化紹介等）
- ・岩手県大連友好議員連携総会出席
- ・さんさ踊りパレード参加
- ・ISOセキュリティ専門委員会関連事業における参加者への通訳
- ・国連防災世界会議被災地スタディツアー参加
- ・宮古市日中友好協会での中国プレゼンテーション

#### 【特記事項】

于研修員の受入れに際しては、本県が重点的に取り組んでいる対中国経済交流事業を中心に経験していただくことを基本とし、中国からの要人通訳・アテンドなどの実地研修を中心に実施。

更に、花巻空港でのチャーター便客受入用務や、県庁内での中国情報誌「中国進行時（China Now）」の定期発行、中国茶会の開催、更にNHKローカルニュースに出演して春節行事などを紹介するなど幅広く活躍し、本県と中国との交流について、庁内、県民にPRする重要な役割を担った。

本人の真面目で、物腰柔らかい人柄もあり、周囲の環境に直ぐに適応し、庁内で様々な職員との交流が図られた。

休日には、県内はもとより、北海道や沖縄を旅行するなど、積極的に日本文化を体験することに注力した。

日本語については、来日した時点でかなりの能力を持っていたが、今回の研修を経て、運用面で更に上達をみている。

1年間という短い期間ではあったが、『中国とのネットワーク強化に資する人材育成と相互理解・親善友好関係の増進』という本研修事業の所期の目的は十分に達成されたものと認識している。



雲南省訪問団来訪アテンド



盛岡さんさ踊り参加



花巻空港職員への中国語講座



中国旅行社アテンド



力作！ 庁内中国情報誌「CHINA NOW」



国際交流協会で  
中国春節を紹介  
※NHKローカルニュースにも  
出演し、同内容を紹介



岩手名物わんこそばを体験

### 3 成果・課題

#### <成果>

于路研修員においては、中国からの要人来県時の通訳対応や本県の経済ミッションにおける資料翻訳等、対中事業のサポート役として尽力していただき、大連市との交流促進はもとより、雲南省政府や中国企業など多方面の対中人脈の強化に貢献した。

また、本県と中国との交流について、庁内及び県民へPRする重要な役割を担った。

#### <課題>

本人も了承のうえでの、専門分野（税務関係）とは異なる研修フィールドであったが、研修員の研修希望と実際の受入先における業務のマッチングの難しさがある。

#### <今後の展望>

本県は、来年度も大連市からの派遣研修員の受入れを希望しており、岩手・大連間の地方政府間連携を継続推進し、ひいては、対中経済交流の規模・機会の拡充を図っていきたいと考えている。

## 自治体職員協力交流事業報告書

受入自治体： 茨城県・笠間市  
氏 名： アウン ティン リン  
出身国： ミャンマー連邦共和国  
研修先： 商工観光課



### 1 志望動機

本研修に応募した目的は、観光行政の知識、戦略を学ぶためです。研修期間において、日本の地方公務員の日常生活、仕事のスタイル、職場文化及び民主主義の下における行政システムを学びたいと考えています。また、日本の伝統文化をよく知り、日本とミャンマーの懸け橋になりたいと思っています。

ミャンマーの社会情勢下では、私を含めた内務省総務局の職員は、地方行政の屋台骨です。内務省の目的の1つには、「地方の発展に寄与する」ことがあります。我が国は、現在、貧困の解消と農村部の発展に関する施策を重要視しています。その中でも観光分野は、就業機会の増加に即時性をもった働きをすること及び経済に対する波及効果が大いことから、最重要課題となっております。観光分野の発展は、雇用や所得の増加の要因となり得、ひいては経済的価値、社会的価値を増進します。近年においては、我が国の観光分野の発展はめざましく、経済発展のエンジンの一つとなりました。

このため、公務員が観光行政に習熟することが必要とされており、観光の持続的な発展に関しての国際的なレベルの施策を学びたいと強く考えました。

私は、内務省の職員であるため、退職まで2～4年の間隔でミャンマー中を巡り、地方の隠れた観光資源を発掘できると考えています。このため、観光資源の魅力を広報し観光客を集客する（ひいては、公的部門の財政状況の好転にもつながります。）技術や戦略を習得する必要があります。これらのことが私の志望動機です。



笠間特別観光大使笠間のいな吉と

### 2 研修の概要

研修計画に沿い、私は、日本に住むミャンマー人、特に、関東在住の者を中心に、SNSを用いネットワークを築き、笠間の情報を発信しています。

また、実地研修では守谷市におけるミャンマー大使の講演会、東京で実施されたミヤ

ンマー祭に参加をしました。ここでは、笠間の魅力をミャンマー人に伝えることができました。このほか、印象が残っていることとしては、市長に随行しミャンマー大使館を訪問したことです。

研修を実りあるものとするため、私はフェイスブックを用い、日本に住むミャンマー人のグループページを作成しました。日本に住む我々が必要な情報を共有し役立たせること及び日本とミャンマーの友好に寄与することが主たる目的です。現在、このグループは3,000人規模に成長し、笠間の情報も発信しています。このように、研修を通じて、効果的な広報手段も習得でき、観光需要の喚起や公務利用などに今後も利用できるものと思います。そのほか、JICA（ジャイカ）、NIC専門学校、NPOなどの職員に対し、ミャンマー及びラオスで彼らが実施している寄付事業が円滑に進むように情報提供をしたり、市内小中学校において、国際理解研修として私たちの国のことを生徒に教えました。

市内視察や県外視察（益子町、成田市）の経験から、市内の観光名所を理解するとともに、観光客から見た魅力の源泉が理解できたように感じています。視察後は、復命書を作成し、経験談を市のホームページや広報紙に寄稿しました。

市における観光振興施策の研修としては、数多くのイベントやお祭りに参加しました。グリーンフェスタかさま、ふるさとまつりinかさま、新栗まつり、笠間浪漫、菊まつり、ストーンフェスティバル、つつじまつり、B-1グランプリへの参加を通じ、観光振興の実務を学びました。同時に、市が推進している地場産品（御影石、焼物、菊、いなりずし、栗、ゴルフコース、美術館、神社、農産物）の振興も重要かつ貴重な経験でした。笠間発見伝やB-1のように他団体との協働を通じた市の情報発信がイベントでの集客に繋がっていると感じています。

このほか日本の伝統文化に基づいた魅力も体験しました。お茶会、和食クッキング、八雲神社のまつり、笠間のまつり、灯籠流し、義士パレードなどです。イベントへの参加を通じて、関係団体、メディア、ボランティア、その他の機関と協働する市の役割というものを実感しました。

また、伝統を守ることの意義を「笠間市民」としてこれらのイベントに参加することにより学びました。

市は、私たちが更なる知識と経験を習得できるよう特別研修も実施してくれました。東北視察研修では、ユネスコ世界遺産でもある中尊寺の魅力を高めるために平泉町が行っている施策や石巻市における防災施策、再建状況について知識を深めました。また、松島、仙台市、蔵王にも足を運び、日本の自然の美しさやエコツーリズムを体感しました。

この特別研修により、日本の伝統文化を体験でき、特色ある観光施策を学ぶことができました。

また、この研修期間中、行政の一員として過ごしている日常からも常に刺激を受けています。市職員は礼節が行き届いており、奉仕の精神を持ち合わせています。コミュニケーション能力が市職員としての選考過程での判断基準の1つと聞きました。公僕の精

神が身につけている職員の皆さまに対し心から敬意を表したいと思います。時間に正確で、仕事の前後にごみを集め、イベントやまつりのたびにボランティアとなり公共の福祉のため仕事に邁進する姿など私にとってよき見本となっています。職務に対する責任感も特筆に値するものがあります。

市役所の建造物の構造も1つの建物内で完結しており、ワンストップサービスが可能です。このことも、市民の悩みの解消に役立っているように思われます。情報共有のあり方のレベルも高く、内部のやりとりもインターネットを利用したり、対面であったりと状況に応じ適した方法が選択できます。市民に対しては防災無線を通じ災害時や緊急時にお知らせができることも、有事の備えとして有益なものと感じています。市民に対する広報のあり方もソーシャルメディアを利用し、親近感ある情報提供や重要なメッセージ（選挙など）を配信するなど工夫を凝らしています。このようなメディアやホームページを通じた、市民に対する開かれた行政の姿勢には感じ入るところが大きいです。そのほか、友部公民館での日本語教室に参加をしたり、研修の担当者が終業後に実施してくれている日本語実践講座を通じ日本語だけではなく日本文化も学んでいます。

研修期間を通じて、観光に関する戦略、知識、経験や日本のことば、文化、行政の情報公開の姿勢について、理解を深めました。

公僕をの精神を持ち、計画に基づき、期限を順守し職務に忠実な職員の背中からは数多くのことを学びました。



駐日ミャンマー大使館にて

### 3 帰国後の計画

本研修により、観光分野に限らず行政に係る多くの分野の知識を得、体験できたことは、私にとっての宝であると確信しています。先に述べたとおり、私はミャンマー国中を巡る渡り鳥になりますが、どこに行っても、ここで得た経験を活かし、内務省の職務でもある地場振興と公への奉仕に力を尽くしたいと考えています。特に、地域における貧困の克服に当たって、笠間で得た観光振興に関する知識は、直ちに活用ができます。

帰国後は、ミャンマーでも体験型観光を導入していきたいと思うようになりました。そのためには、食事、文化遺産、歴史的遺産、自然文化、ご当地グルメ、宗教的遺産を発掘する必要があります。観光振興を推進するに当たり、私なりに観光計画を考えてみました。エドモンド・ジェローム・マッカーシー教授のマーケティング理論（いわゆるマーケティングミックス戦略、4P理論）を観光戦略用に修正し適用したいと考えています。

つまり

製品 → 観光地、魅力的なスポーツイベント、食事、民族による特徴的な生活様式、文化遺産、買い物

価格 → 輸送費、宿泊料など  
広告 → 観光情報の発信  
場所 → アクセスの利便性  
が要素となります。

観光計画を実現化していく過程で、上の4要素をそれぞれ強化していきます。今考えていることとしては、関係団体への示唆や協働により、地域の魅力と各要素の質を高めていくことです。また、地域における観光の魅力を高めていくため観光連盟のようなものも設立して行きたいと考えています。そして、地域の観光振興が成功した際には、地域の零細企業の成長も促していきたいです。地域の声を集約する場を設ける事は、知識や戦略の共有化が可能となり地域振興の推進が可能であり、経済波及効果も狙えます。

私は、観光産業を振興するため、補助金の活用や人的、知的支援を行い、地域の元気づくりを応援していきたいと考えます。

このほか私が国で役立てたいと考えている分野は、災害対策分野です。特に、自然災害に対しての防災施策を取り入れたいと考えます。自然災害についての教育は、重要です。自然災害の被害を軽減させるため、アラートシステムや災害教育を導入していくつもりです。私が所属している内務省が所管する、地域の防災づくり計画においても、自然災害防止センターの設立や災害時Jアラートシステムが導入される方向です。

また、内務省において、開かれた行政とするように施策を取り入れていきたいと思えます。今後は、観光情報の効果的発信や広報、情報伝達手段としてメディアの活用を図ります。既にホームページはあるものの、効果的に活用できているとは言い難い状況でもあり、行政が目指すビジョンや目的を効果的に伝えるような活用を図りたいと思っています。

開かれた行政は住民の誤解を未然に防ぎます。メディアを正しく活用することにより、行政は住民からの信頼感、親近感を得られます。行政と住民が協働することが貧困克服をはじめとする諸課題を解決する鍵であると確信しています。



空間の皆さんと義士パレードに参加

# 「協力交流研修員を受け入れて」

自治体名 茨城県笠間市

研修員名 ①HTEIN LIN AUNG  
出身国 ミャンマー連邦共和国  
研修分野 観光  
研修期間 9か月  
主な研修先 商工観光課

研修員名 ②BIMBO SISAVATH  
出身国 ラオス人民民主共和国  
研修分野 観光  
研修期間 9か月  
主な研修先 商工観光課

## 1 背景・目的

笠間市（以下「本市」という。）は、行政運営の成否は「人」であるとの認識から、国際化分野における重要目標として、総合計画において「国際化時代に対応できる人づくり」を掲げている。

平成20年7月に制定した笠間市国際交流推進方針では、「市民の国際理解の促進、国際的視野をもつ人材の育成、外国人が住みやすい環境の整備など、国際化に的確に対応したまちづくり」を進めることとしている。

このことから、本市では「隗より始めよ」の精神で、率先して職員の国際感覚を醸成するため、協力交流研修員（以下「研修員」という。）の受け入れを決定した。

本市は、観光入込客数について県内第3位を誇り、観光地として培ってきた独自のノウハウを保持している。研修員の派遣元においては、観光行政の水準の底上げを必要としていたこともあり、双方にとって有益な形で本事業を実施できたものとする。

## 2 研修の概要

研修期間 平成26年6月20日から平成27年3月31日まで

- ・ 商工観光課における実務研修
- ・ 地方自治制度、地方公務員制度研修
- ・ 県外視察研修（東日本大震災被災地視察（石巻市））
- ・ 外国人旅行者受入検討会オブザーバー
- ・ タイ王国メーサイ市訪問時通訳業務

・市内小中学生を対象とした国際理解研修

### 3 研修実施にあたって工夫、苦勞したこと

語学力の関係から、受け入れ当初は研修員とのコミュニケーションの面で支障が生じることもあった。しかしながら、研修員2名とも快活で人柄もよく、短期間で本市になじむことができた。

円滑に研修を実施するに当たり重要だった点として、研修員が日本で生活を開始するために必要な事項（買い物、公共料金の支払い、ごみ出しなど）を、口頭ではなく、相手が理解するまで実地で指導したことが挙げられる。

我々が当たり前と捉えている物事が、相手にとっては違うことが多々あった。例えばごみを分別する習慣、外出するとき電気のブレーカーを落とさない習慣である。

何故このような違いがあるのかを説明するには、社会的、文化的な相違を踏まえる必要があるため、研修員と受け入れ担当者双方にとって、まさに国際相互理解といった経験ができた。



平成26年10月18日 B-1 グランプリ in 郡山にて

### 4 成果・課題

研修員2名は、本市での実務研修により日本における観光施策についての理解を深めることができた。H T E I N氏は、ミャンマー連邦共和国（以下「ミャンマー」という。）内務省の職員であり、帰国後は地方行政の要職として、国中を異動することとなる。本市での経験がミャンマーにおける地方振興の起爆剤となることを信じ今後の活躍に期待したい。

B I M B O氏は、州全体が世界遺産であるルアンパバーン州の職員であり、帰国後はルアンパバーン地域を将来にわたって魅力ある観光地域とするために力を尽くすと意欲旺盛である。

帰国後も、研修員は派遣元地域と本市との間の友好関係のキーマンである。彼らと力を合わせ、将来的には再び人的な交流や友好都市（地域）となることも視野に入れながら交流を継続していきたい。

## 富山での研修体験

受入自治体： 富山県  
氏 名： コスタ ホジレイネ アパレシーダ  
出身国： ブラジル連邦共和国  
研修先： 高岡市立野村小学校



### 1 本事業に応募した動機

小さいころから先生になりたいかった理由は、良い教育は良い国や良い社会づくりに欠かせないものだからです。中学校のころ、先生方はいつも日本の教育は良いと言っていましたので、その言葉が頭から離れませんでした。私は、生まれた国を愛していますし、いつかブラジルの皆が尊厳のある生き方をして、自分達の目的を果たせるように願っています。そのために私が少しでも教育の場で頑張りたいと思っていました。

大学卒業後、先生から学んだ「日本の教育は良い」ことをブラジルの生徒に伝えています。教育とは、目標を達成するため、人生の壁を乗り越えるために利用出来ることをブラジルの生徒に伝えています。しかし、聞いたことだけでは伝える効果は薄いと思います。だから、大学卒業のころに政府が主催している国際交流事業を知って日本に行こうと思いました。そうすれば、私のスキルアップにもなるだろうと思いました。そしてその思いを抱いてきました。

けれども、教育現場でのいろいろな障害物があったために、日本に来るのは後回しになりました。そして次のチャンスが来た時、私は年齢が高かったために、一度諦めてしまいました。しかし、両親は私が一生懸命日本語を習っているのを見て、日本に行くように背中を押してくれました。そして、日本の教育を学ぶために来日する決心をしました。

### 2 研修の概要

#### <JIAMでの研修>

成田空港に着いて、最初の3日間は、政府関係者の講演会や日本の生活のオリエンテーション、JIAM（全国市町村国際文化研修所）で日本語講座を受けるための日本語テスト、面接等がありました。東京で初めて、これからお世話になる県の担当者に会うことができ、その後、国会議事堂や浅草寺の見学もできました。

日本にきて4日目に、滋賀県大津市のJIAMへ案内されました。そこでは、午前9時から午後5時までの間日本語の勉強を教えてもらったり、ワークショップや講座を受けたりしました。日本語の勉強の他に、歴史的な京都のまちや滋賀市役所へ行くこともできました。研修員が週末に自由に出かけたい場合は、CLAIRのスタッフさんの許可をいただければ、行くことができました。

1ヶ月の勉強期間を終えると、期末テストがありました。その他に、日本語で、故郷ブラジルの面積、人口、郷土料理などについての作文を書かなければなりませんでした。私は自分の住んでいるポアの町を選びました。共同で他国の誰かと発表しなければならなかったのですが、韓国の研修員とそれぞれの故郷のことを発表しました。そのため、サンパウロのことは少し簡単に話すことになりました。

#### <富山県での専門研修>

私の日本語が不十分であったため、日本語の勉強を延長することになり、研修開始が遅れました。2週間遅れで、7月に研修を始めることができました。

富山に着いたとき、富山県庁ととやま国際センターの担当の2人が高岡駅に出迎えに来てくれ、高岡での過ごし方や歓迎会への出席について教えてくれました。歓迎会にはフォーマルな服で出席しなければならないと思いました。

それからの数日間は、健康診断をしたり、高岡市役所で住民登録をしたり、小学校の校長先生に挨拶をしに行ったりしました。日本では、フォーマルな服を着て、お土産を持って挨拶に行くのがしきりです。



日本語教室

野村小学校の研修での私の仕事は、日本語がわからなかったり、簡単な計算などができない外国人児童のサポートをしたり、日本語の先生を助けてあげたりすることでした。ブラジル人児童に付き添いながらの授業が必要でした。

日本語教室の先生をサポートする他に、家庭訪問をしたり、保育園を見学したり、外国人のいない教室も見学し、テーマを選び児童に授業を行ったりもしました。私は、サシペ

レレの紙芝居を読むことを選びました。外国人相談員の若井先生が紙芝居の絵を書いてくれました。

私の研修は、ブラジル人児童への指導のサポートをすることでした。ブラジル人児童とその親は、日本語を母国語として家で使わないので、学校では先生の説明を聞けなかったり、出した宿題をしなくなったりしてしまう傾向があります。その児童たちが、日本語と算数の勉強をできるようになるため、特別に教室を設け、佐伯ひろみ先生が一对一で教えていました。先生はポルトガル語で話せないので、私は、時々児童にポルトガル語で問題の説明をしました。

1年生の児童は、日本語教室への出席は強制ではありません。そのため、日本語教室以外でも、私は時々教室で付き添いをしました。付き添いは、児童が授業を妨げる行動を取ったりしたときに行われました。

野村小学校では、家族の状況について聞き取り調査をして、日本で生まれていない児童や日本のブラジル人学校に通えなかった児童だと分かると日本語教室を勧められていました。そしてより早く学校や友達に慣れてくれたらと望まれていました。

先生一人一人が、教えるために、献身的な努力や職場の同僚と協力をしているのを見て感動しました。私は教育者としてもっとベストを尽くさなければならないと思うようになりました。また、私には大きな変化がありました。自分を見直して、日々努力をして、もっと生徒に優しく接してあげようと思うようになりました。



学校の活動（茶道クラブ）に参加

学校に音楽の教科があることも感心しました。先生たちが、児童に教えられる知識や技術を持っているのがすごかったです。何回か多数のクラスに行き授業を見せてもらいました。そして授業の中で直接聞くだけでなく、練習時間に校舎内に流れる音楽も楽しみにしていました。コンクールに優勝しなかったけれどもすばらしかったです。子供が音楽を通して人生のいろいろな困難を乗り越えられる感じがします。なぜなら音楽と同じで、人生ではいろいろな規律を守らなければならないからです。

### 3 帰国後の展望

6ヶ月間の研修は夢のようでした。なぜなら、日本語を習い始めてからずっと日本に来たいという想いを抱いていたからです。自分自身がいつも障害物を作り、実行しませんでした。たとえば、お金がない、日本語がうまく話せない、年齢が高い、公務員だから、などです。ですが結果的には、日本に来て、損をしたことなど何もありません。そしてこのことはブラジルに帰って、生徒達にも伝えたいです。夢は見ても良い、いつか叶う日が来る、どんなに難しいように思えることでも、教育を受けていればその実現の可能性は十分にあるのだということ。

自分の故郷のことをあまり知らずにいましたが、この研修を通してわかりました。自分ももっといろいろな所へ行き、他の国の雰囲気や食文化を味わって、生徒達に伝えるべきであることに気が付きました。人や文化の違いに気が付き、私は大きく変わりました。来日前は目の前のことしか見えなかったのが、今はもっと遠くまで見えるように感じます。これまで、先入観を持って人と接してしまっていたのですが、もう人にレッテルを貼るようなことはしません。研修を通して、このようなことも学ぶことができました。

研修を終えての私の日本人のイメージは、外国人に親切に接したり、温かくもてなしたり、静けさと自然を愛したり、思いやりがあったり、他人を大切にしたりすることです。それから、日本人はにぎやかな音楽を道で聞いたり歌ったりしませんが、音楽を愛してやまない国民です。しっかりとした目標をもって実現するまで規律を守る国民です。こうして日本人を知り、学んだことは書き切れないくらい多かったです。

### 4 おわりに

この研修の機会を与えて下さった日本の政府、スタッフに大変感謝しています。

5月に日本に来てからたくさんの友達もできて、たくさんの体験もして、良い思い出もできました。このことを一生忘れません。もうすぐブラジルに帰るのですが、いつかまた日本に来るかもしれないと思っています。日本のことはずっと心に残ります。ここでの体験を多くの人に伝えたいと思います。

最後に、野村小学校の先生、富山県、私の担当者、CLAIRのスタッフ、通訳さん、ホームステイのホストファミリーに感謝します。

# 「平成26年度自治体職員協力交流事業を実施して」

自治体名 富山県  
研修員名 コスタ ホジレイネ アパレシーダ  
出身国 ブラジル連邦共和国 サンパウロ州  
研修分野 教育  
研修期間 6か月  
主な研修先 高岡市立野村小学校

## 1 背景・目的

本県では、県の総合計画「新・元気とやま創造計画」に「グローバル社会における地域づくり・人づくり」を掲げ、海外からの技術研修員を積極的に受け入れている。これまで、南米諸国、友好提携先等、その他開発途上国に対する技術協力事業の一環として技術研修員を受け入れ、さまざまな分野の技術移転により母国の経済開発に貢献しうる人材を養成するとともに、研修員と県民とのふれあいを通じて国際親善に寄与してきた。

一方で、近年の県内外外国人住民の増加や定住化に伴い、日系ブラジル人をはじめとする多くの外国籍児童が、日本の小学校で言葉や文化の違いに戸惑い、悩みを抱えているという現状があり、多文化共生に配慮した教育環境の整備も課題となっているところである。

このため富山県では、平成21年度より、ブラジルサンパウロ州から教育経験のある人材を受け入れ、ブラジル人児童が多い小学校で、ポルトガル語やブラジル文化に配慮した学習支援を実施するとともに、外国籍児童の保護者に対して日本の教育制度等の理解促進に努めることを目的とした「多文化共生推進研修員受入事業」を実施している。

## 2 主な研修内容

日本の教育制度の理解、外国籍児童への学習支援、家庭訪問への同行、日本人児童へのブラジル文化紹介 等

## 3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

研修員はJIAMでの日本語研修及び補習の受講後も日本語力が十分でなかったため、当初、専門研修の開始には不安があった。しかし、研修開始後は受入校に配置されている外国人相談員の方々による通訳サポートや、先生方の配慮があり、徐々に日本語で話すことにも慣れ、問題なくコミュニケーションを取れるようになっていった。

研修では、日本の教育制度の理解や日本で学ぶブラジル人児童の現状の把握を目的とし、外国人相談員の随行のもと、ブラジル人児童宅への家庭訪問を行った。保護者の考えや心情、児童の家庭での学習の様子を把握できたことが、本人にとって貴重な経験と

なり、そのことを以後の各児童に対する学習サポートにも役立てていたようだ。

また、研修中は授業だけではなく、放課後には茶道やかかるた等のクラブ活動を見学したことで日本文化にも明るくなり、これまで以上に日本文化に興味をわいたようだった。クラブ活動の中でも、ウインドアンサンブルの演奏を聴いた際には、その完成度の高さと児童の頑張りに心を打たれ、思わず涙するほどであった。このように授業外の活動を見学することも、研修員にとって非常に良い経験となったようである。

一方、専門研修外においては、研修員の研修内容や生活状況について確認するため、隔週でのミーティング、月一度の個別面談を実施したことで、研修員の悩みや不安、意見などに対し細やかに対応することができた。



紙芝居を使ってブラジル文化を紹介



立山・黒部への視察旅行

#### 4 成果・課題

研修員は、受入校で日常的にブラジル人保護者の対応やブラジル人児童間のトラブル対応にもあたり、ブラジル人保護者や児童と日本人教員との橋渡し役として活躍した。特に、外国人相談員不在時においては、他の教員から非常に頼りにされる存在となっていた。また、研修員が授業時間内外に児童と触れ合ったり、母国の文化紹介をしたりしたことは、児童にとって生の多文化理解の講座となった。休日には地域の行事にも積極的に参加し、県民との交流を通じて友好親善にも大いに貢献した。

サンパウロ州は、富山県にとって人的交流にとどまらず、経済、観光、文化、教育等の様々な分野における重要なカウンターパートであり、今後関係はますます強いものになると感じている。研修員には、帰国時に「とよま名誉友好大使」を委嘱したところであり、今後は、本県で習得した技術や経験を生かして専門分野で活躍されるとともに、引き続き、本県とサンパウロ州との友好の架け橋としての役割を果たしてもらえるよう願っている。

## 日本の教育現場で感じたこと

受入自治体： 愛知県豊橋市  
氏 名： オノ マルシア ケイコ  
出 身 国： ブラジル連邦共和国  
研 修 先： 豊橋市役所学校教育課  
(豊橋市立多米小学校)



### 1 志望動機

昨年私の勤務するパラナ州マリंगा市の小学校を豊橋から派遣された教員が見学に訪れました。彼は教育制度についての情報交換や日本から帰国したブラジル人児童の実態把握などを行っていました。私の勤務する小学校にもポルトガル語が不十分であったり、学習に遅れが生じているというような問題を抱える日本からの帰国児童がいます。彼らにとって本当に必要な指導は何であるのかを日本とブラジルの教育制度の違いを知ることによって学ぶことができると思い、この事業に応募しました。

### 2 研修の概要

#### ①全体研修

他の自治体の研修員と共に約1ヵ月日本語学習を中心とした研修に参加しました。初日の東京でのオリエンテーションを終えた後、滋賀県大津市のJIAMに移動し、毎日他の研修員と生活を共にしながら、日本語の勉強に励みました。日々の日本語の勉強はとても楽しく、もっと学びたいと思いました。また、JIAMでは日本語の勉強だけでなく、日本文化を体験する機会も数多くありました。日々の生活やイベントを通じて研修員同士仲良くなり、研修後にJIAMの周りを自転車で探索したり、週末には他都市へ出かけたりしました。クレアのスタッフや日本語の先生、他の研修員皆にいつも親切にしてください、本当に感謝しています。機会があれば今後もっと日本語を向上させたいです。

#### ②専門研修

豊橋市では約5ヵ月間豊橋市立多米小学校にて専門研修を受けました。豊橋市には約六千三百人のブラジル人が住んでいますが、私の研修先の多米小学校区にもたくさんのブラジル人が住んでおり、小学校にも



多米小学校でブラジル人生徒達と

ブラジル人生徒が多く在籍していました。

多米小学校では主に国際クラスの授業に参加し、児童たちの学習支援を行いました。また市内の他の学校にも出向き、ブラジルの教育制度について講話をしたり、各学校のイベントや防災訓練に参加したりしました。イベントでは着物の着付けや、花道体験、お月見団子作りなど、各学校の外国人生徒達と一緒に日本文化を体験しました。ブラジル人生徒と保護者の個人面談にも参加し、日本とブラジルの教育制度の違いを学ぶだけでなく、日本でブラジル人生徒が抱える問題についても考えることができました。

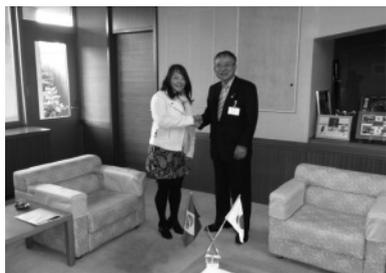
日本の教育現場で驚いたことは、教員の協調性と積極性の高さです。ブラジルでは教員が教育に対して無関心であるという問題があります。日本では教員が互いに助け合い、様々なイベント・行事に積極的に参加していますが、これはブラジルでは考えられないことです。ブラジルでは教員が協力して行事を行う機会が少なく、授業が終了したらすぐに他の学校に出発してしまうこともしばしばです。一方日本は国を挙げて教員の教育に力を入れています。それが教員の積極性やモチベーションの維持につながっているのではないかと思います。



ブラジルの教育制度について講話

また日本の職員室には各教員専用の机がある点にも驚きました。職員室に自分専用の机があることで、次の授業の準備を行うことができ、毎日の朝礼もスムーズに行うことができました。職員室の構造についてもそうですが、日本の学校では教員間でコミュニケーションを維持することができるシステムが整っており、各生徒の抱える問題に対して、教員が協力して向き合うことができます。日本と比べるとブラジルの教育制度は、施設面をはじめ、まだまだ改善していく必要があると感じました。

教育現場での研修以外でも豊橋市のイベントに積極的に参加しました。10月に開催された豊橋まつりでは、市職員の皆さんと一緒に総踊りに参加しました。約2万人の人と国籍を超えて共に踊るのはとても楽しい経験でした。私は日本食も大好きなため、日本で暮らしていて不自由を感じることはありませんでしたが、6カ月間家族と離れて暮らすことでホームシックになってしまいました。そんな時に支えてくれた同じ多米小学校の先生たちには、本当に感謝しています。



佐原豊橋市長と会談

### 3 帰国後の展望

この研修を通じて、日本での教育制度に対する知識を深めることができました。日本

の教育制度とブラジルの教育制度が大きく異なることで、ブラジル人生徒がブラジルに帰国した際に抱える問題についても、これまでより深く考えることができるようになりました。日本から帰国したブラジル人生徒をいかにしてブラジルの教育制度に順応させるのがよいのか、この経験を生かして今後検討していきたいと考えています。また生徒自らが行う日本の学校の掃除方法や給食の配膳方法についても大変感銘を受けました。この制度は帰国したらぜひ私の勤めている学校でも実践してみようと考えています。

今回の研修を通じて関わった皆様にこの場を借りて感謝の意を述べたいと思います。どうもありがとうございました。

# 「ブラジル人児童生徒の教育支援に向けて」

自治体名 愛知県豊橋市  
研修員名 マルシア ケイコ オノ  
出身国 ブラジル連邦共和国  
研修分野 教育  
研修期間 6ヶ月  
主な研修先 教育委員会学校教育課 豊橋市立多米小学校

## 1 背景・目的

本市の公立小中学校には、平成26年9月1日現在1,352人の外国人児童生徒が在籍しており、中でもブラジル国籍の児童生徒数は638人と全体の約50%を占めている。

市教育委員会では、外国人児童生徒相談員やスクールアシスタントを配置するなど、環境整備を進めてきた。しかし、言葉の壁や文化の違いによって生じる様々な問題を抱えている外国人児童生徒は多く、支援が求められている。

このような現状の中、日本の教育制度の理解や、外国人児童生徒の教育相談、学校と保護者とのパイプ役となることを目的として、本市では平成19年度よりブラジルから教員を研修員として受入れてきた。また、研修員の帰国後も、研修で学んだ日本の教育制度などについて現地で周知・指導したり、日本から帰国したブラジル人児童のサポートを継続していくことを期待している。

なお、豊橋市は平成22年度よりブラジル・パラナ州の教育局に教員を派遣し、日本の教育制度の周知や日本からブラジルへ帰国した児童生徒の実態把握等を行っている（国際協力職員派遣事業）。豊橋市とパラナ州が協力して双方の教育環境向上に資することを目的としている。

## 2 事業実施について

### (1) 研修内容

研修先である豊橋市立多米小学校は外国人児童が全校の約14%を占めており、市内でもその割合が大きい学校である。研修員は主に国際学級の授業や課外事業に参加し、児童と関わりをもった。

また、市内小中学校に学校訪問希望調査をし、希望のあった学校へ研修員が訪問して国際学級の授業のサポートや野外活動、日本文化体験などを行った。



一年生と給食を食べるマルシア先生

学校現場以外の外国人児童の様子も見るができるよう、多文化共生・国際課事業の「市長と外国人児童の交流会」に参加するなど、市内在住の外国人児童と関わる機会を積極的に設けることができた。

## (2) 工夫、苦勞したこと

昨年に引き続き、市内全ての小中学校に訪問希望調査を行ったことで多くの学校を訪問し、学校ごとの雰囲気や研修員も感じることができるよう努めた。

今年度は、外国人生徒が多く在籍する中学校で5カ月のうち1カ月研修を受けた。中学生を対象とした進路についての講座や面談も行ったことで、それぞれの年代がもつ不安や悩みを知ることができたと思う。また、研修員の日本語能力が高く、他の教員ともうまく意思疎通ができていたため、様々なことに挑戦してもらうことができた。課外授業にも他の教員と一緒に随行し、協力して生徒を指導していた。

一方で、会話の詳細までは理解することができないため、教育現場で専門用語等を理解できず、悔しいこともあったと話していた。日本語での専門的な研修には高いレベルの日本語が必要であり、通訳の配置を含め今後の研修員の受け入れ方を再検討する必要があるように思われる。



(多米小学校の子どもたちと)  
生徒を指導するマルシア先生

## 3 成果・課題

研修員からブラジルの教育制度や学校の様子についての知識を得たことで、教育の現場で役立てたり、ブラジルのことをあまり知らない児童の母国への興味を引き出すことができた。また、子どもの進学について不安をもっている保護者に対して子どもへの接し方や母国の教育事情を伝える機会を設けたことで、安心感や児童の将来への関心をもたせることにつながった。

学校生活では、ブラジル人児童の学習理解が深まるよう母国語を使って指導したり、来日したばかりで学校に馴染めていなかったり、思い通りにならないと感情的になってしまう児童に対してじっくりと話を聞くなど適切な対応をとり、児童も徐々に学校に慣れていくことができた。

帰国後には、国際協力職員派遣事業でブラジルに派遣されている本市教育委員会指導主事と再会し、意見や情報の交換を行うことで日本で得た知識をブラジルの教育現場でどのように生かすことができるのかを具体的にイメージすることができた。

研修員には、半年間の研修の成果を大いに生かし、来日する予定の児童や日本から帰国した児童の支援を続けていただくことを期待している。そして、両国で学ぶ児童が生き生きと活躍できるような環境づくりを研修員と共に目指していきたい。

## 絆・一生忘れられない日本の研修生活

受入自治体： 山口県  
氏 名： 賈 茹  
出身国： 中華人民共和国  
研修先： 山口県山口宇部空港事務所



### 1 本事業に応募した動機

私は2010年から山東機場有限公司旅客服務部のアテンダントとして、済南空港で働いています。主に国際、国内線のお客様のチェックイン手続きの受付を担当しています。今、航空業界は急速に発展しており、各国の国際空港も自港の高速発展を追求しています。山東機場有限公司においても「空港大県・強県」を目標に日々努力し発展しています。私も済南空港のために、先進的ビジネス設備と完璧な安全管理システムや社員制度、サービスシステムを学ぶ必要がありました。そして、更なる国際、国内航路の開拓、様々な発展方式を探求したいと思っていました。そこで、私は研修員として山口宇部空港で研修することで先進的な管理体制と優れたサービス理念等を吸収して済南国際空港の安全管理体制の完備とサービスシステムの向上に力を尽くしたいと思いました。

また、済南空港と山口宇部空港は友好協定を結んでおり、情報の交換と共有は両空港の友好を深めるとともに、双方の文化経済等各領域の調和に役立つと思いました。

### 2 研修概要

#### (1) 東京及び全国市町村国際文化研修所（J I A M）研修（5月18日～6月20日）

5月18日、私は初めて日本にきました。総務省で「ようこそ、日本へ！」のスクリーンを見た時、日本に来ていることを実感しました。CLAIRの皆さんは、最も美しい方法で全ての研修員に希望と活力が満ちたドアを開けてくれました。

国会議事堂の見学と日本の地方自治制度、地方分権改革の研修を通して日本の政治制度の理解を深めました。また、「和・敬・清・寂」の精神を持つ裏千家茶道を体験しました。更には、日本国宝建造物の彦根城と徳川家康に多大な貢献を果たした井伊家を見学し、実際に日野町住民の家で日常生活を体験しました。様々な見学を通してCLAIRの多文化共生の努力を見ることが出来ました。多文化交流の必要性と日本伝統的文化の中に「和」の精神を悟ることが出来ました。

琵琶湖畔の全国市町村国際文化研修所で日本語を学ぶことで、これからの日本の生活により良く溶け込むことができるよう基礎を固めました。研修の最終成果発表会で私たちは発音優勝賞を取りました。その時皆さんの喜んだ笑顔が忘れられません。それは皆さんの努力の賜物です。その1ヶ月の研修であらゆる国から来た皆さんがお互いに励ます環境を作り、すぐ順応して一緒に努力することで友情を厚くすることがで

き、これからの独自研修の基礎を固めることができました。

## (2) 山口宇部空港の研修

### ①山口宇部空港事務所（6月21日～12月19日）

山口宇部空港は特定地方管理空港として「快適な空の旅」と地域活性化の促進を図るために日々努力しています。県事務所は空港の保安対策や滑走路等の維持管理、緊急時の対応連絡部門を担い、山口宇部空港運営の「鍵」となっています。皆さんのご指導のもと、様々なことを学びました。最初に、空港の沿革や滑走路、PAPI灯、航空障害灯等の点検について学びました。そして、空港標識設備の管理や入場証、着陸料統計、航空保安の規則、国際チャーター便業務等を学び、空港管理について理解を深めました。最後に、消防隊や航空管制タワー等を見学し、市内の見初小学校の五年生との交流等も体験しました。

ここでの仕事を通して、日本の職場の真面目な雰囲気、仕事をする時の慎ましい態度に感心しました。空港は通常業務の他に色々な活動を行います。例えば、小学生の空港見学とか、「空の日」には県民に実際に滑走路、飛行機、消防車の乗車を体験してもらい空港と市民の距離を縮め交流を深めています。そのことで子供たちの心にパイロットや乗務員の夢の種を撒いています。それは未来の日本の航空事業の希望に繋がると思います。



航空障害灯の点検

### ②山口宇部空港ビル株式会社（7月23日～8月23日）

山口宇部空港ビル株式会社は主にターミナルビルの管理運営と維持管理を行い、イベント等の空港活動と空港広報企画も担当しています。

ここで1ヶ月間、拾得物手続きやグッズ袋詰め、ターミナルのテナントの日報の作成、ターミナル内広告やポスター作成等、山口宇部空港ビル株式会社が行っている業務について詳しく学習しました。案内所の接客業務の研修では「おもてなし」という精神と接客サービスについて研修を受けました。一番印象に深く残ったのは空港サービス理念です。茶道から生まれた「その瞬間を、人生で一度の出会いと思い、心を込めて、お客様を迎える」という「一期一会」の思想こそ日本の文化である「おもてなし」の源流です。空港サービスはおお客様の立場に立って考え、共感をもらえる。こんな「おもてなし」の精神こそ、接客サービスにとって、一番大切なことだと思いました。

### ③航空会社（ANA・JAL）（8月25日～9月19日）

ANAとJALは日本の航空市場で重要な地位を占める会社として、安全を運営の基礎とし、お客様の立場に立って、最高品質を追求して一生懸命努力しています。

1ヶ月近く、ANAとJALの各部門で研修しました。旅客サービス部門のチェッ

クインカウンター業務や集札及び手荷物受託カウンター業務、客室担当者及び機内清掃検収業務、手荷物仕分け、搬送、搭載補助等グラウンドハンドリング全般業務、整備飛行機点検補助と貨物取扱及びステーションコントロール業務等の研修を通して、地上勤務の厳しいプロセスを良く理解することが出来ました。「細部は成否を決定づける」はここで経験した業務にまさに一番ふさわしい言葉だと思います。色んな場面を想定して訓練を行う。例えば、夏に乗客から預かったペットに水や氷を用意して、ペットに心地よい環境を作る。こんな細かいところから日本のサービス精神、おもてなしの心を感じられます。



JALグラウンドハリ全般業務

#### ④ 県外研修

10月8日に広島空港を見学しました。広島空港は国管理国際空港として、平成25年度乗降客数は日本の空港の中で第15位にランキングしており、国際乗降客数は第8位にランキングしています。この数字は先進的な設備及び厳しい管理システムと切り離すことができないと思います。空港の中にお客様が体験できるフライトシミュレーターがあります。VIPルームには色々な飲み物が用意してあり、お客様のプライベートを考えて独立した部屋になっており、パソコン室、授乳室、ひいてはシャワー室もあります。ターミナルビルの中はとても綺麗で、良い商品がたくさん販売され、レストランには和食と洋食が用意されており、お客様が自由に選んでいます。休憩エリアでは心地よい環境の中で、コーヒーを飲んだり或いは本を読むなどとてもゆったりとした雰囲気の中で過ごすことができます。

10月27日には東京ANA訓練センターで、航空事故の発生及び対応方法について研修しました。ANAは会社設立当初からの全ての事故を検証しており、各事故発生時の場面を分析し再現して、事故の再発を予防するための措置を講じています。ANAの新入社員は必ずここで研修を受けることになっています。ANAの安全管理システム及び管理制度は事故処理の経験から生まれたものです。

この展示ホールに入って最初に目に入ったのは航空事故を起したその残骸の写真です。最も直観的な形で航空事故の悲惨さを見せることで、深く反省させられます。展示ホールの事故時の哀絶な犠牲者家族の写真とビデオは、ここに入ったそれぞれの人に航空安全の重要性を訴えています。普段どんなに小さなミスで



旅客サービス部チェックインカウンターの研修

も大きな事故を起こす可能性があります。ここでの研修は安全の重要性を身に染み込まされました。

### 3 帰国後の展望

空港の発展のためには、先進的な施設の建設、管理、サービスのどれも欠かすことはできません。今回の山口宇部空港の研修は得るところが多く、今後の済南空港の発展のために、その知識を役立てていきたいと思えます。済南空港の発展のためには現在の状況から日本で学んだことを活用することで、近い将来、様々な人にとって優しい空港にしていきたいと考えています。例えば、VIPルームと乗客休憩エリアを改造して、旅客に対して心地よい空間を提供するなどのサービスの向上を図っていきます。

また、日本で体験したおもてなしの気持ちを、済南空港の職員にも管理体制の中で理解してもらい、サービスの品質を向上させ旅客との距離感を縮めていきたい、さらに、日本の空港のように二次元バーコードを使用して、旅客の情報をチケットの発行から最後の搭乗まで一元的に管理することで旅客の利便性を図るとともに、コストの節約に努めたいと考えます。

時のたつのは早いもので、あっという間に帰国の日を迎えました。初めて日本に来た時のワクワクした気持ちを思い出すと、残るのは名残惜しい気持ちだけです。半年の間、日本の多くの場所を訪れることができ、賑やかな東京、和風に満ちた京都、夜景が素晴らしい神戸、海が綺麗な沖縄等日本各地の美しい風景を見ることができました。

日本の友達、同僚の多くの方々的心遣いに感動させられました。そのことを思い出すたびに心の中が幸せでいっぱいになります。これも私がここから離れたくない理由の一つです。

日本の皆さん、仕事のご指導、普段の生活でのご配慮ありがとうございました。たとえ、将来私が年を重ねても、この半年間の日本での生活を決して忘れないと思えます。

# 「国際空港の将来を担う研修員との国際交流」

自治体名 山口県  
研修員名 賈 茹  
出身国 中華人民共和国  
研修分野 空港管理  
研修期間 6ヶ月  
主な研修先 山口宇部空港事務所

## 1 背景・目的

山口県は、中国山東省と1982年に友好協定を締結し、幅広い分野で交流を深めている。その一環として、山口宇部空港は、2009年に済南国際空港と友好協定を結んでおり、国際チャーター便の運航など、国際化施策の推進を図る県の国際交流の基点となることが期待されている。

山口宇部空港は、県内の「空の玄関」としての役割を果たしており、山口宇部空港事務所は、航空機の安全な離発着等を確保するため、滑走路や航空灯火等施設の点検・維持管理を行うとともに、空港施設の使用調整・承認、空港の保安対策や消防救難対策の強化を図っている。また、空港利用者の利便性を向上し、快適な空の旅を提供できるように駐車場や周辺施設の環境保全・整備を行っている。

また、空港内には、航空局等国の出先機関や航空会社、ビル管理会社をはじめとする民間事業所等多数の機関があり、これらの関係機関と連携しながら、空港の円滑な運営にあたっている。

当事務所では、山口県と山東省が今後もより交流を深めていくためにも、学習意欲旺盛な研修員を受け入れることは、大変意義深いことと考え、今回、初めて協力交流研修員を受け入れた。

## 2 事業実施にあたっての工夫など

### 1) 空港業務全般の習得を目指した研修プログラムの実施

賈茹さんは、中国山東省済南国際空港のカスタマーサービスセンターで4年の勤務経験を有する20代のアテンダントとして中級空港客運員検定を有し、済南国際空港の「5スタースマイル」優秀賞、「サービススター」優秀賞を受賞するなど、日々迅速に搭乗手続業務等をこなしている。



空港消防隊業務視察

今回の研修応募の動機として、先進的な空港管理の方法や日本における接客サービスの理念等を吸収して、自身の経験を済南国際空港の安全管理制度の完備やサービスの向上に役立てるため、空港管理やサービス提供のノウハウの習得などを掲げていたことから、山口宇部空港事務所で実施する空港管理業務の研修に加え、旅客サービス等、空港の案内所やチケットカウンター、貨物輸送等の業務については、あらかじめ、山口宇部空港ビル株式会社やANA、JALといった航空会社に、研修実施について協力を依頼し、できるだけ空港業務全般について、技術を高め、知識を得られる研修内容となるよう配慮した。

夏茹さんが、6月下旬の来所時から、研修に対し意欲的な姿勢を示していたことから、当初の予定どおり、空港管理に関する基本的な内容について、山口宇部空港事務所において7月中旬まで研修を実施した。

7月下旬から1ヶ月間ほどは、山口宇部空港ビル株式会社において、案内所等での接客研修を受講し、細やかな接客サービスを学んだり、イベント準備でちょうちん祭りや七夕祭りの飾りつけを行うなど、ターミナルビルの業務等を体験した。

その後、8月下旬からは、ANA、JALといった航空会社において、旅客サービスのチェックインや手荷物受託カウンター業務、機内清掃や航空機の整備業務といったエアラインの業務については、見学等が主体ではあったが、1ヶ月程度、学んだ。

特に、案内所やチケットカウンターでの接客サービスの研修は、日本のきめ細かいおもてなしの気持ちを込めたサービスの方法等、学ぶことが多かったようである。

9月下旬からは、山口宇部空港事務所において、前半の研修で実施できなかった施設の見学など、空港の維持管理に関する研修を実施した。

また、空の日記念フェスティバルの事前広報では、ラジオ出演してもらい、イベントのPRや山東省の紹介を行うとともに、10月のイベント当日には、来場者の受付等のイベント運営も経験した。

こうした山口宇部空港での研修実施の他に山口宇部空港ビル株式会社が実施する広島空港やANAの羽田訓練センターへの視察に同行する機会を得たことから、ターミナルビルの先進的設備や航空機事故発生とその予防や対応が学習できる研修施設などを見学することができ、こうした体験も貴重な経験となった。



空港消防隊業務視察



空港案内所業務

11月からは、12月上旬に実施される日本語能力検定試験を受験する意向があったことから、試験準備や研修報告書の作成の時間を多く取るようにした。

また、賈茹さんにクレアの研修アンケートとは別に、山口宇部空港事務所においても、所員とのコミュニケーションや研修内容について、アンケートを実施して、要望等を確認するなど、所員の対応姿勢の見直しを図った。

日本の挨拶や中国と異なる職場での基本的なルールなどについては、気づいた時点で職員が、随時、指導するなど、理解してもらえよう努めた。

## 2) 日本文化に触れ、多くの人々と交流

社交的で、行動力のある賈茹さんは、山口宇部空港事務所以外の空港関係機関でも多くのスタッフと積極的に交流を図っていた。

特に、山口宇部空港ビル株式会社やエアラインの女性スタッフと県内外の観光地や施設を訪ねたりすることで、日本の文化や歴史に触れることができ、日本人の生活を知り、考え方を学ぶことができたようである。

山口宇部空港事務所においても、職員と賈茹さんができるだけ一緒に行動する時間を確保することで、相互の理解がより深まるものと考え、賈茹さんには、事務所や空港関係機関の親睦行事への参加、宇部市内の小学校での交流や県内の観光名所への視察、福岡や別府といった県外への職場旅行にも参加してもらい親睦を図った。

賈茹さんは、県内外の研修員とも積極的に連絡を取り合い、出かけていくなど、日本食やファッションなど日本のあらゆる文化に関心を持ち、日本での研修生活を楽しんでいた。こうした生活の中で日本語の会話も上達して、コミュニケーション力も向上していったのではないかと思う。

また、日本の漢字やひらがな等の筆記については、本人が、折に触れ自習ノートに気づきなどを書き取っていて、分からない単語は、随時、調べたり、所員に尋ねるなどして理解に努めていたため、研修報告書を作成する11月頃には、日本語の筆記能力もかなり向上していた。



「空の日」イベント

## 3 成果・課題

### 1) 空港の安全管理や接客などのサービス品質の向上

賈茹さんは、山口宇部空港事務所の研修を通じて、空港施設の維持管理、管理方法などを学習し、山口宇部空港ビル株式会社やANA、JALといった航空会社における研修を通じて、案内所でのインフォメーションや落とし物の対応やチケットカウンターでの迅速で正確な接客など、日本のきめ細かな接客サービスについて学んだ。

特に、接客サービスの面では、おもてなしの精神など、日本から見習うべき点が多いということであり、山東省済南国際空港のカスタマーサービスセンターで実際に接客サービス等を担当している賈茹さんが、こうしたノウハウを勤務先に持ち帰り、実践していくことで、空港全体のサービスの向上にも繋がっていくのではないかと思われる。

帰国後は、是非、空港の安全管理の見直しや旅客に対して心地良い空間を提供するなど、職員の先頭に立って、空港全体にサービス向上の意識を浸透させてほしい。

## 2) 空港関係機関スタッフ等との交流

賈茹さんは、前述したように、社会的で行動力があり、研修期間中に日本で多くの友人、知人を得て、日本の文化・歴史に触れる多くの機会を得た。

研修中は、いつも笑顔で、一生懸命に研修に取り組む賈茹さんの姿勢は、周囲を和ませ、山口宇部空港において、私たちが普段気づかない考え方や気づきを与えてくれて、多くのことを学ばせてもらった。

今回の研修で賈茹さんと山口宇部空港事務所をはじめとする空港関係機関のスタッフとは、素晴らしい交流を図ることができたものと思う。

今後、賈茹さんが山口県と山東省の国際交流のキーパーソンの1人となって幅広く活躍されることを心から願っている。

## 土壌管理技術

受入自治体： 高知県  
氏 名： アトゥ プレント アンドレス  
出身国： フィリピン共和国  
研修先： 高知県農業技術センター



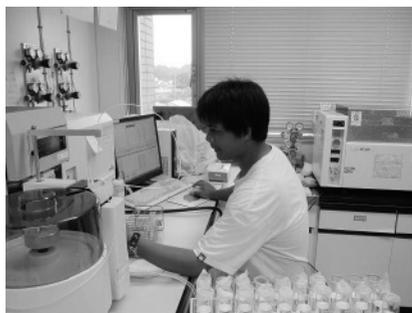
### 1 本事業に応募した動機

私は農業拡大を担当する職員として、日本の農業研修に参加すれば、ベンゲット州の農業プロジェクトの実施に関する私の職務と責任を果たす能力を高められることを確信しています。また、土壌管理の新しい先進技術に関する技能も向上するでしょう。

日本に研修員として受け入れられるのはうれしいことです。機会を与えられてこの研修に参加できることをこれからずっと大事にしていくつもりです。

### 2 研修概要

研修はこれまで、楽しく興味深いものです。私は研修期間中に多くのことを学びました。指導者から、日本で採用されている土壌分析の様々な方法と手法を教えられました。私は土壌のpH、導電性 (EC)、陽イオン交換容量 (CEC)、硝酸性窒素 (NO<sub>3</sub>-N)、亜硝酸性窒素 (NO<sub>2</sub>-N)、アンモニア性窒素 (NH<sub>4</sub>-N)、リン (P)、カリウム (K)、マグネシウム (Mg)、カルシウム (Ca) などの分析作業を行いました。作業を迅速、容易かつより正確にする先進の方法と機器を使う分析を経験することは名誉なことでした。



原子吸光分光光度計 (AAS) を使用して行う  
土壌のカリウム (K)、マグネシウム (Mg) および  
カルシウム (Ca) 分析

土壌部門に所属する指導者の助けを借りて、われわれは土壌管理の実験を行いました。土壌のpHは、質の良い健康な土壌環境を維持する上で不可欠な要素の1つであると考えてのことでした。われわれは土壌のpHを高め、植物にとって望ましい状態を維持することを目的に、炭酸石灰 (CaCO<sub>3</sub>) とヤシ灰の分量を変えて、それがキャベツ、ブロッコリーおよびホウレンソウに及ぼす効能をテストしました。その結果はこれまでのところ、きわめて有望です。

ナスの適切な剪定、ナス、生姜、ニラその他の作物の収穫、分析のための適切なサンプルの準備など、多くのことも学びました。



植え付け用の試験区の準備



試験作物としてのキャベツとブロッコリーの植え付け

### 3 帰国後の計画

近年、わが国の農業部門には、解決しなければならない問題や課題が数多くあります。その課題の1つが、土壌管理です。日本での研修期間中にものにした手法と技術を応用することで、もっと効率的かつ効果的に仕事ができるようになるでしょう。私が応用を計画している1つの手法は、ヤシ灰を使って土壌のpHを管理し、引き上げることです。こうした経験により、研修や技術デモンストレーションの試行を通じて日本で学んだことを伝えて地元の農家を援助することも可能になるでしょう。

研修を成功させ、楽しく素晴らしいものにしてくれたすべての人々に感謝したい。ありがとうございました。

# 「ベンゲット州の土壌改良に向けて」

自治体名 高知県  
研修員名 アトゥ プレント アンドレス  
出身国 フィリピン共和国  
研修分野 農業（土壌肥料）  
研修期間 6ヵ月  
主な研修先 高知県農業技術センター

## 1 背景・目的

高知県では、昭和50年にフィリピン・ベンゲット州と姉妹県州提携して以降、ほぼ毎年ベンゲット州からの技術研修員を受け入れてきた。平成17年度からは、自治体職員協力交流事業により研修員を受け入れ、本県のもつノウハウや技術の習得、人材育成等を行っている。

## 2 研修の概要

高知県農業技術センター（生産環境課土壌肥料担当）での研修期間（7月7日～11月6日）における主な研修内容は以下のとおりである。

### （1）水田および露地野菜ほ場、施設野菜ほ場における土壌調査方法の習得

土壌分析診断を行う上で必要なサンプル採取方法について、当センターが実施している試験ほ場で実施した。水稲栽培ほ場では、栽培終了時の土壌断面調査を行い、層位別にコアサンプル採取を行い、土壌硬度測定等を研修した。また露地野菜栽培ほ場および施設野菜栽培ほ場では、定期的に土壌の変化を測定するためのサンプリング位置や方法を研修した。

また、採取した土壌を分析に供するための調整作業も研修した。

### （2）土壌分析技術の習得

土壌pH、ECや無機態窒素、塩基類についての分析方法について研修した。特に塩基類の中でカルシウムについて、簡易分析法が原子吸光分析法とほぼ同じ精度であることを確認し、自国でもできるように標準液の作り方、抽出方法についても研修した。

### （3）ほ場試験の設置および収量調査他栽培管理について

試験ほ場を設置し、ブロッコリー、キャベツ、ホウレンソウの栽培試験を実施し



写真1 土壌コア採取方法の研修

て、定植前から生育中の土壌の変化や作物の生育について調査し、ほ場試験の設計や土壌pHが作物に及ぼす影響について研修した。

### 3 研修に当たって工夫、苦労したこと

フィリピン・ベンゲット州における土壌の課題（鶏ふん多用による土壌pHの低下）を聞き取り、フィリピンで入手しやすい灰を用いて酸性土壌改良の圃場試験を実施した。ただ、本年度は8月に雨天が多かったため、ほ場準備が遅れて十分な実証試験とならなかったのが残念であった。

研修後半には日本語が上達したものの、当センター職員も英語があまりできず、分析手法や専門的な知識を伝えるのに苦労した。

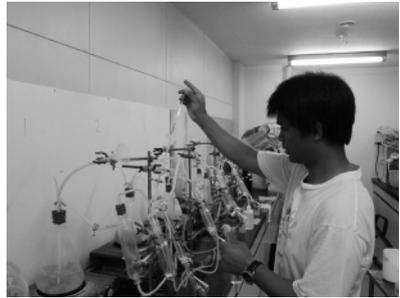


写真2 無機態窒素分析（蒸留法）の研修

### 4 成果・課題

今回の研修では、土壌分析の技術（試料採取、調整、機器を使った分析）について、フィリピンでの分析方法との違いを確認し、効率的な方法を習得することができた。また、酸性土壌と関連の深いカルシウムの分析については、これまで彼の職場では測定機器がなかったため行われていなかったが、本研修で簡易分析法の実用性が確認できたので、フィリピンでの調査・研究に活用できると思われる。ベンゲット州の土壌肥料分野の職員は彼一人であるため、今回の研修によって習得した効率的な分析技術が今後の仕事に生かされ、フィリピンの農業生産性向上に貢献できることを願う。

## 福岡県北九州市

### 環境に配慮した北九州市の下水道技術をハイフォン市へ

受入自治体： 福岡県北九州市  
氏 名： ファン パン フェン  
出身国： ベトナム国  
研修先： 福岡県北九州市  
北九州市上下水道局海外事業課



#### 1 本事業に応募した動機

ベトナム国ハイフォン市は、現在、人口増加や都市化などに伴う環境問題（温暖化による降雨量の増加など）が深刻になっている。さらに家庭や工場などから排水される下水によって、公共用水域の汚染も進んでいるため、早急な下水道整備に加え、適切な事業運営が必要となっている。

一方、北九州市は、甚大な公害から緑豊かな街に復活した経験を有しており、現在では、その経験を海外へ展開するなど、国際貢献にも積極的に取り組んでいる。

そこで、本事業を通じて北九州市下水道の経験・技術を習得し、ハイフォン市の水環境改善に貢献したい。

## 2 研修の概要

### 2.1 日本語等の研修（5/18-7/3）

JIAMでは日本語の勉強以外にも、日本の文化や習慣・政治などを学習した。JIAMが準備した語学研修や施設見学、セミナーなどを通じて、日本に関する知識が蓄積できた。

### 2.2 北九州市での下水道技術研修（7/3-11/25）

北九州市では、環境改善の歴史や下水道システム全般について学ぶと共に、市内大学（北九州市立大学）の講義参加や市内企業の訪問などを行った。

#### <研修概要>

- －基本研修：北九州市の環境施策、水質改善の歴史など
- －専門研修：下水道計画、設計、施工管理、維持管理（運転、修理と管理）  
水質管理、啓発活動の取組方法、GISシステムなど

#### <研修方式>

講義と現場見学がセットであったため、下水道に関する知識を深めることが出来た。さらに、下水処理場や工場で作業を行っている方々と意見交換を行うことで、多くの疑問点が解消された。



下水道計画に係る講義

#### <具体的な研修内容>

##### ◆水環境改善の考え方

- ・時宜に応じた適切な下水道計画
- ・環境や上下水道事業を広く市民に理解してもらうための広報・啓発実施手法
- ・下水道資産の長寿命化に向けた適正な運営・維持管理の方策
- ・その他、市民の意見を取り入れた整備手法や他事業（河川・道路など）との連携など

##### ◆インフラ整備、維持管理など

- ・北九州市は、5つの処理場（621,000m<sup>3</sup>/d）、34箇所のポンプ場、4447kmを整備し、効率的な下水処理、適切な維持管理を実施している。
- ・下水処理場は、標準活性汚泥法を採用しており、適宜水質管理を行なうなど、監視が行き届いている。
- ・下水処理場から生成されるメタンガスを有効活用するため、消化ガス発電にも取り組んでいる。
- ・大規模な管渠整備は、推進工法やシールド工法を採用し、交通渋滞や騒音対策に取り組んでいる。
- ・管渠の更生についても、SPRやパルテムフローリング工法を採用し、交通渋滞などの対策に取り組んでいる。
- ・ポンプ場や水門は、遠隔操作によって集中管理している。



処理場とポンプ場の見学



下水処理場の点検・修繕

#### ◆ 広報・啓発活動

- ・ 下水道広報活動・環境学習に取り組んでいるため、環境に対する市民意識が高い。
- ・ 市民とのコミュニケーション向上に向け、モニター制度の導入やお客様センターの設置など、公聴活動にも積極的に取り組んでいる。

#### ◆ 環境に配慮した取り組み

- ・ 公園の修景用水やトイレの先浄水に下水処理水を利用する仕組みづくり
- ・ 下水汚泥のセメント原料化や燃料化など
- ・ 太陽光発電や風力発電、水力発電など、あらゆる自然エネルギーを活用
- ・ リサイクル素材の積極活用
- ・ 省エネルギーため、LED電気を使用すること

#### ◆ そのほかの研修と活動

GISを利用した下水道台帳システムを構築している企業を訪問し、情報管理のソフトウェアについて学ぶことが出来た。ハイフォン下水道排水公社が使用しているARCGISに比べるとデータの入力などの操作性が非常に高い。

また、北九州市立大学においては、環境に関する講義を受講すると共に、GPS-Xのモデルを学んだ。GPS-Xは、嫌気消化モデルに基づき水処理システムの管理に有効的である。

### 3 帰国後の展望

ハイフォン市は、下水道事業に本格着手したところであり、今後普及拡大を目指していかなければならない。さらに、合流式下水道から排水される未処理下水の対策も急務となっている。

そこで、以下のことに配慮し、北九州市で学んだことをハイフォン市で活かしたい。

- ・ 大規模な開削工事は、騒音や振動により、住民生活や交通に多大な影響を与えるため、推進工法やシールド工法などの高度技術を採用する。
- ・ 浸水問題を解決するため、地下調整池を整備する。
- ・ ハイフォン市のマンホールは、清掃・浚渫・改善などの作業が困難な構造になって

いるため、維持管理が容易となるように改修する。

- ・マンホールは、設置箇所も多く工期を要するため、工期短縮に向けて、製造工場を整備する。
- ・ハイフォン市が使用しているARC-G I Sソフトウェアは不便であるため、北九州市が使用しているシステムと同等なものを導入する。
- ・下水汚泥を埋立て土として利用しており、環境汚染が進行しているため、ハイフォン市に適した汚泥処理方法の検討を進める。
- ・広報・啓発活動に積極的に取り組み、学校と連携して水環境の大切さを発信していく。
- ・小口径パイプの検査にTVカメラを使用する。

#### <短期計画>

- ・化学物質や重金属等を取り扱う事業場から排水を適切に管理する
- ・雨水排水システムの企画立案
- ・将来の維持管理を想定し、マンホールや管渠などを改修
- ・台帳システムに北九州市が使用しているシステムを同等のものを導入
- ・啓発・広報活動の強化（市民との情報交流など）
- ・雨水調整池の建設

#### <長期計画>

- ・合流式下水道の改善（分流化など）
- ・管渠整備に特殊工法（推進工法、シールド工法など）を採用
- ・マンホール製造工場による、適切な品質管理
- ・下水道汚泥の有効活用
- ・太陽光発電や風力発電など自然エネルギーの有効活用

# 「平成26年度自治体職員協力交流事業 自治体事業報告書」

自治体名 福岡県北九州市

研修員名 ①サトリオ・スサント  
出身国 インドネシア共和国  
研修分野 環境  
研修期間 6か月  
主な研修先 環境局環境国際戦略課

研修員名 ②ウォルヒナ・アンナ  
出身国 ロシア連邦  
研修分野 国際ビジネス  
研修期間 7か月  
主な研修先 産業経済局国際ビジネス政策課

研修員名 ③ファン・バン・フェン  
出身国 ベトナム社会主義共和国  
研修分野 下水道技術  
研修期間 6か月  
主な研修先 上下水道局海外事業課

## 1 背景・目的

北九州市では、平成8年度から自治体職員協力交流事業を活用して、アジアを中心とした海外の自治体等の職員を研修員として受け入れ、研修を通じた海外とのネットワーク構築や市職員の国際感覚の向上などにより、本市の国際化推進に大いに役立てているところである。

受け入れる研修分野は、一般行政、上下水道、経済など幅広い分野にわたっており、派遣国・自治体からも地方行政に携わる職員の育成に貢献するプログラムとして高く評価されている。



研修生による市長表敬



### 《研修員①》

研修員は1ヶ月間の日本語研修を受けているものの、日本語だけでは十分な意思疎通が難しく、日頃のコミュニケーションは英語を交えて行った。

本市や本市の関連機関が受け入れている海外からの研修生向けの視察コースに参加させてもらうことで、英語での説明を聞くことができ、より深い理解が可能となったほか、周辺自治体も含めて多くの施設を訪れることができた。

### 《研修員②》

研修生の希望もあり、研修前半は日本語習得と北九州地域の理解に関するプログラムを多く取り入れた。特に、（公財）北九州国際交流協会が主催する日本語教室は、語学学習だけでなく、浴衣体験や料理教室（和食・お弁当作り）など日本の文化を学ぶため、週1～2回参加し、日本の伝統に関する知識も習得できる機会を作るように心がけた。また、上下水道や環境分野の研修に参加している研修生と一緒に、各分野に関する施設や産業に関する観光地等を訪れ、本市の産業に関する幅広い知識が得られる研修内容を設定した。

研修後半は、産業に関する理解をより深めるために企業訪問を積極的に行った。中でも、ロシアに支店を持つ市内企業の訪問では、現在の経済状況や今後のロシアでのビジネス展開等の意見交換を行い、帰国後の交流に繋がる研修となった。

また、トルコ共和国の訪問団が北九州市を訪れ、市内企業の視察や北九州市との覚書を締結した際の受入準備や視察への同行など、一連の業務を一緒に行うことによって、日本における受入側の実務を経験してもらった。全体をとおして、実際に現場を訪れて体験する内容を多く取り入れた研修になったと思う。



環境ミュージアムを視察するアンナさん

### 《研修員③》

本研修では様々な取り組みを進めてきたが、特に工夫・配慮したことは、以下の通りである。

- ・自治体間の友好を深め、ブリッジ人材となってもらうための研修員との信頼関係の構築
- ・研修員のニーズに合致した研修プログラムづくり
- ・帰国後に活用できる知識・技術の習得
- ・日越通訳や下水道の知見を有するコーディネータの研修同行
- ・充実した長期研修を受講できるための生活面での支援
- ・ベトナム人留学生、本市が受け入れている他局の研修員との交流

- ・フォローアップのための連絡体制づくり など

### 3 成果・課題

#### 《研修員①》

スラバヤ市とは平成16年より環境保全に関する国際協力を行っており、平成24年11月には環境姉妹都市に関する覚書を締結した。

これらの協力関係を背景に、現在、スラバヤ市において廃棄物・エネルギー・上下水道などの分野におけるプロジェクトを行っているが、研修員にはこれらの取り組みについても理解してもらっており、今後もプロジェクトの推進にあたって連絡を取り合い、事業の円滑化と両市の更なる友好関係の強化に努めていきたい。

#### 《研修員②》

本事業により、研修生に北九州市の現状や素晴らしさを知ってもらうことができ、国際ビジネスに限らず本市に対する理解は深まったため、今後の経済交流の促進に繋がるものとなった。

また、本市も研修生との交流を通してロシアを身近に感じることができ、研修で関わった市内企業側もロシアとのビジネスを考える機会を得ることができたため、大変有意義な半年間となった。

今回の研修は、本市の産業に関する幅広い知識を習得してもらうことに重点をおいたが、ロシアの産業やビジネスについての情報など、研修生が発信する機会をもっと増やすことが必要であると感じた。研修生によるセミナーを開催するなど、研修内容のさらなる充実が課題である。

研修生には、帰国後、北九州市とロシア・チェリャビンスク市との懸け橋となり、研修を通して得た知識、体験を元に、新たなビジネス関係の構築や経済交流の促進に努めてもらうことを期待している。

本市としても、ロシアに限らず、協力関係先に対する理解を深め、今後も本事業を通して経済交流を発展できるように日々取り組みたいと思う。

#### 《研修員③》

本事業は、本市上下水道局が過去の受入研修等で培ったノウハウをもとに実施したが、6ヶ月に及ぶ長期研修であること、研修員の下水道の実務経験が少ないことから、よりわかりやすい研修や幅広い知識を習得するなどの課題があった。

しかし、研修員の努力と能力により、想定以上の下水道に関する知識・技術の習得が図られ、研修期間中に本市の技術移転を行うことができた。

さらに、長期間行動を共にすることで、実際の現地ニーズの把握や強固な人的ネットワークの構築を図ることができた。

今後も研修員と密に連絡を取りながら、研修のフォローアップをしつつ、国際貢献及び海外水ビジネスを推進していきたい。

## 湖北省と大分県の交流促進のため

受入自治体： 大分県  
氏 名： 熊 娟  
出身国： 中国  
研修先： 企画振興部国際政策課、観光・地域振興課、  
(公社) ツーリズムおおいた



### 1 本事業に応募した動機

中国・湖北省咸寧市は近年、国際知名度の向上と国際交流の推進を図るため、政治・経済・教育・文化など多岐にわたって国際協力事業を展開し、大きな成果を収めました。私は2013年に大学院を卒業してから咸寧市政府外事弁公室で働き始めました。外事弁公室に入って、出国書類審査や公用旅券の管理など日常的な業務のほかに、外資誘致と現地企業の海外進出支援、国際文化交流など多くの場で外国訪問団の視察、商談会と公演のアテンドに携わっています。そんな中、湖北省と大分県が人的交流の促進の一環として、若手職員の国際交流と中日連携について実践的な知識と行動力を育み、更に大分県と交流促進、関係深化を図ることを目的として、2013年から職員の相互派遣に合意しました。外事弁公室の党組書記に推薦されて、大分県で行われる観光研修に応募させていただきました。

### 2 研修の概要

大分県での研修は、大分県庁の国際政策課と観光・地域振興課といった行政機関での研修を経て、公益社団法人ツーリズムおおいたで観光誘致宣伝業務を体験させていただきました。

#### (1) 全体研修

日本に着いてまず東京で三日間のオリエンテーションが行われました。東京には二年前留学で四カ月滞在したことがあります。日本の政治の中核である麹町地域で研修を受けることができるのは格別有意義でした。その後の1カ月間は、滋賀県にある全国市町村国際文化研修所（J I A M）で日本語の研修を受けました。日本語の上達を果たしたのみならず、見学、体験、交流会など様々な形で日本の事情をよく知ることができました。

#### (2) 国際政策課での研修

着任後すぐ、広瀬知事、二日市副知事にご挨拶に参りました。知事は三年前の湖北省公式訪問の際、咸寧市を視察したことがありますので、咸寧市のことについてお話ができました。知事から「日本独特の『おもてなしの精神』を体得してください」、副知事から「大分の豊かな観光資源を存分に堪能して、大分の魅力を中国へ情報発信

してください」と激励の言葉をいただき、「観光」はただの遊びではなく、「地域の光を観る」ことでもあるので、観光研修で学んだことを地元の観光誘致と地域振興に生かすと決意を新たにしました。

研修の始めには、国際政策課で二週間にわたって県の概要や海外戦略、県産品について説明を受けました。講義のほか、別府市の必見スポットともいえる「地獄めぐり」を案内していただきました。日本一の温泉を誇る大分はさすがに温泉資源と温泉施設が豊富で、入る温泉だけでなく、目で見て楽しめることもできます。別府市内の「湯けむり」を眺めてここが本物の温泉町だなと実感しました。大分は、人口当たりの留学生数も日本一と聞きましたが、立命館アジア太平洋大学（APU）を見学し、構内はまさに地球社会の縮図ともいえる国際的な環境でびっくりしました。九州唯一の孔子学院もAPUと連携して設立されたので、ここで日本における中国語の授業を初めて体験しました。



別府市の観光地「血の池地獄」視察

特に印象に残っていたのは、月に一回行われる大分県海外戦略推進プロジェクト会議を傍聴したことです。四月からの人事異動にもかかわらず、第3回と第4回会議が順調に開催されました。当会議は、国際政策課の課長を座長として事務局も当該課に置かれています。ここで企画振興部、商工労働部、農林水産部及び教育庁の各部署のメンバーたちが出席し、海外関連業務の実績と予定をそれぞれ報告しました。中国の外事弁公室は国際政策課とほぼ同じ業務内容ですが、こういうような情報共有の場を作れば、観光誘致、企業の海外進出、県産品のプロモーション、国際交流などの分野でより効率よく意思疎通を果たし、成果を挙げることができないかと思われま

### (3) 観光・地域振興課での研修

国際政策課の研修を終え、観光分野の専門的な研修が始まりました。観光・地域振興課では、関係職員の方々から県の観光施策について説明していただき、観光に関するセミナーや会議の同席、地域観光視察のアテンドなどをしました。

時々中国の旅行雑誌に掲載される予定の観光PRの文章の中国語翻訳や、中国版ツイッターへの観光情報発信を任されていました。

中国の観光業界では飲食店や旅館などの個人事業者が立ち上げた組合などがありません。個人に対して観光局というのは公的機関として管理役を果たしています。大分県インバウンド推進連絡会を傍聴した際のことをよく覚えています。当連絡会は県内の観光事業者や観光協会、自治体により構成されており、外国人観光客の誘致活動や受入態勢の整備について取り組む組織です。県の観光・地域振興課が事務局を担当しています。ここでメンバーたちがいろいろな視点から観光誘致の打開策について協議

が行われました。県のほうが連絡調整の役割を果たしているのに、旅館組合からPRのために外部担当の情報提供をしてほしいという声がありました。温泉県の知名度向上につれて、温泉になじまない国に対して、日本食・歴史文化を取り入れた商品づくりをしてほしいという意見も出ました。日本人はあまり本音を出さないという今までの印象が一変して、官民一体というのは複数の声が聞こえる場から始まるのだと思います。

国際クルーズ船ダイヤモンド・プリンセスの別府寄港の際、歓迎セレモニーが行われ、海外からお越しくださる方々を温かく迎えました。めじろん、べっぴょんなどのゆるキャラが大いに活躍し、歓迎イベントを盛り上げました。来年の夏に、全国のJRグループ6社がデスティネーションキャンペーンとして大分を取り上げるようになりますので、9月3日から三日間全国の皆さんに大分県の観光素材をPRする「全国



ダイヤモンド・プリンセス別府寄港の出迎え

宣伝販売促進会議」を開催しました。初日、大分県の各市町村のゆるキャラが会場に大勢集まり、花道を作って観光関係者の出迎えに努めました。ゆるキャラはまさに日本の「おもてなし文化」の表れだと改めて感銘を受けました。

#### (4) (公社) ツーリズムおおいたでの研修

9月1日から大分県の観光協会に当たるツーリズムおおいたで研修を始め、ここで観光誘致の手法などを学びました。中国で旅行雑誌を扱っている広告会社の由布院取材に通訳者として案内したり、ムスリム系旅行会社の別府視察旅行に参加したり、県内の国際留学生と観光体験ツアーに出かけたり、バスターミナル、フェリー乗り場、道の駅などにパンフレットを配布に回ったりして、大分県内のほとんどの市町村に足を運びました。更に東京ビッグサイトで開催された「ツーリズムEXPOジャパン2014」に出展された本県のブースで観光PRに努めました。

アウトドア系雑誌記者を招いて、ジオパークに認定された大分県姫島の視察旅行を1泊2日でアテンドしたことが一番感銘深かったです。面積6.87km<sup>2</sup>、人口2,189人の小さな島ですが、二日間の見学で出会った県と村の関係者が観光誘致のために真剣に取り組んでいる姿勢に感動しました。過疎化が進む中、観光交流人口の拡大による地域の活性化を図る取組は、いうまでもなく大事なことです。県の企画のもとで、村民と行政が一体となって、地域資源を生かして島の魅力を再発見する意気込みを実感しました。「地域が輝き、人が訪れ、さらに地域が元気になる」という大分県ツーリズム戦略は言葉に止まらず、第一線の人々が常に意識して実際に進めていると考えました。

#### (5) 大分県での生活・草の根の交流

大分県にいる半年間、仕事や生活の面で職場の同僚に大変お世話になりました。夏

の別府湾花火大会、湯平温泉のソウメン流し大会、秋の岡城址紅葉狩り、由布院温泉旅行に行ったりして、日本の季節の風物詩に独特の魅力を満喫しました。更に中日の友達を誘って家で中華火鍋の食事会をやったり、振袖を着て国際民族衣装ファッションショーに出たりして、非常に充実した生活を送りました。みなさんに出会えたことで、素敵な思い出ができました。もうすぐ帰国しますが、感謝の気持ちが心いっぱい広がるのを感じます。



「おおいた国際フェスタ2014」で着物体験

### 3 帰国後の展望

今回の研修を通して温泉をはじめとする大分県の自然風土・歴史文化にすっかり魅了されました。帰国後は、一人でも多くの中国の人達に豊かな観光資源を有する大分の魅力をPRしていきたいと思っています。そして、観光分野だけでなく、湖北省と大分県との学校交流、経済、文化的交流など、交流の裾野を広げていくことに貢献したいと考えています。

最後になりますが、研修期間中にお世話になった皆様に深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

# 「2年目となる中国湖北省の研修生を受け入れて」

自治体名 大分県  
研修員名 熊 娟  
出身国 中華人民共和国  
研修分野 観光  
研修期間 6ヶ月  
主な研修先 国際政策課、観光・地域振興課、（公社）ツーリズムおおいた

## 1 背景・目的

県では、急速に進む経済・社会のグローバル化に対応するため、平成23年5月に県の海外施策の取り組むべき方向性を示す羅針盤として「大分県海外戦略」を策定（平成26年3月改定）した。成長著しいアジアの活力や人材を取り込み、共に発展する「アジアに開かれた、飛躍する大分県」の実現を目指して、各分野における海外施策を推進している。

この一環として、中国において発展の可能性が大きい華中エリアの中核的な省であり、鉄鋼、自動車産業など本県の産業構造と類似性の高い湖北省との交流を平成23年度に開始した。知事による湖北省公式訪問（平成23年度）を皮切りに、翌年度には省政治協商会議主席が来県するなど、トップの相互往来により交流が本格化した。この中で、更なる交流促進のため職員相互派遣を実施することとなり、平成25年度から、自治体国際化協会「自治体職員協力交流事業」を活用して研修員を受入れている。

## 2 研修概要

### （1）行政機関

#### ①庁内研修（県国際政策課）

・ 県勢概要、海外戦略、アジアビジネス研究会、県産品等の説明 等

#### ②庁内研修（観光・地域振興課）

・ 大分県ツーリズム戦略等の説明、大分県観光統計、留学生観光体験ツアー参加、国際クルーズ船歓迎セレモニー参加 等

### （2）観光関連団体

#### ①公益社団法人ツーリズムおおいた（県観光協会研修）

・ 県内観光地視察、中国人観光客向けHP作成、イベント運営補助  
ツーリズムEXPOジャパン出展業務補助 等

## 3 事業実施にあたっての工夫、苦労したこと

研修分野については、研修員の希望を踏まえ、本県の自然風土や歴史文化を深く理解

研修分野については、研修員の希望を踏まえ、本県の自然風土や歴史文化を深く理解することのできる「観光分野」に決定した。本県は、「別府」や「湯布院」といった国内有数の温泉観光地をはじめ、豊かな自然に育まれた山海の幸を数多く有しており、「日本一のおんせん県おおいた\_味力も満載」のキャッチフレーズと共に戦略的なツーリズム施策を推進している。また、研修生の派遣元の湖北省咸寧市も温泉の故郷と称される土地であり、今回の研修を通じて、本県の温泉観光施策への理解を深めることはもちろん、今後の交流を見据えて多数の関係者とのネットワークを構築できるように、県（国際政策課、観光・地域振興課）や（公社）ツーリズムおおいたでの研修を実施し、帰国後には公務員として観光に携わる研修員が実務に活かせるよう、観光PR手法や日本式おもてなし等を学べるプログラムとなるよう配慮した。

#### 4 成果・課題

研修員は、日本語が堪能であり、コミュニケーションに関する問題が全くなかったことで、約半年間の研修が非常にスムーズに行うことができた。

また、研修を通して、本県の素晴らしい観光地や食、温泉をはじめとする自然風土・歴史文化を知ることで大分県の大ファンになってくれた。「帰国後は、一人でも多くの中国の人達に豊かな観光資源を有する大分の魅力をPRしていきたい。観光分野だけでなく、湖北省と大分県との学校交流、経済、文化的交流など、交流の裾野を広げて行くことに貢献したい。」との感想を述べてくれた。

約半年間の研修により、多数の行政・観光関係者とのネットワークを築くことができ、帰国後はこれら研修の成果を十分に活かし、大分県めじろん海外特派員として、定期的な連絡を取り合い、県と湖北省との交流の架け橋として活躍いただけるものと期待している。



別府地獄蒸し体験



副知事からめじろん海外特派員を任命



空港離任式にて知事の激励を受ける研修員 熊端さん案内所業務

平成 26 年度 (2014 年度)

自治体職員協力交流事業 (LGOTP) 協力交流研修員研修報告書

---

平成 27 年 7 月 発行

編集・発行 一般財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) 交流支援部経済交流課

〒102-0083 東京都千代田区麹町 1-7 相互半蔵門ビル 6 階

電 話 (03) 5213-1726

F A X (03) 5213-1742

U R L <http://www.clair.or.jp/>

---

